

2025年、「観光先進国」へ飛躍の年に



東急ホテルズ&リゾーツ 取締役社長 村井 淳 氏

「コロナ禍の反動需要に円安が拍車がかかり、インバウンドはますます拡大を続けている。一方で国内客の取り込みは重要な。予約チャネル戦略、今後の新戦略も考えていこう。」

元谷 24年11月期のインバウンド客比率は全国平均が前年対比8割増の約30%、東京エリアに限定すると同13割増の約50%だった。国別にみると、台湾、米国、韓国、中国、欧州の順で、これより約半数を占める。25年11月期のインバウンド比率は全体で32%を見込んでいる。

弊社も直予約には注力しており、「アパ直」として宣伝している。チャネル別比率は、アパ直が33%、国内OTAが27%、海外OTAが33%とな

国内客、予約チャネルに戦略

「コロナ禍の反動需要に円安が拍車がかかり、インバウンドはますます拡大を続けている。一方で国内客の取り込みは重要な。予約チャネル戦略、今後の新戦略も考えていこう。」

元谷 24年11月期のインバウンド客比率は全国平均が前年対比8割増の約30%、東京エリアに限定すると同13割増の約50%だった。国別にみると、台湾、米国、韓国、中国、欧州の順で、これより約半数を占める。25年11月期のインバウンド比率は全体で32%を見込んでいる。

弊社も直予約には注力しており、「アパ直」として宣伝している。チャネル別比率は、アパ直が33%、国内OTAが27%、海外OTAが33%とな



アパグループ 社長兼最高経営責任者(CEO) 元谷 一志 氏

グローバルブランドが急増

国内にグローバルブランドホテルが増えている。Marriott Bonvoy(マリriott)やIHG Rewards(IHG)など、海外系ブランドのホテルが増えている。元谷氏は、これら海外系ブランドの急増について、グローバルブランドの急増は、海外系ブランドが増えることが大歓迎。日本への訪問客全体の数が減るきついか、後押しになってくれるはずだ。

ただ、今までは、グロリアリーブランドの上陸がメインだった。最近では、その逆も起きている。アパグループの海外系ブランドの急増は、海外系ブランドが増えることが大歓迎。日本への訪問客全体の数が減るきついか、後押しになってくれるはずだ。

アパでは、「1ホテル1イノベーション」として、新ホテルには必ず新しい改善を加え、利便性向上を図っている。最近では、ベッドボードのコントロールパネルに、冷暖房と浴室の電源以外にワンタッチでオン/オフできる一括スイッチを開発し、コスト削減にも取り組んでいる。試段階で、お客様から好評を受けている。日本に比べて、海外では、お客様が安心して利用できるホテルは少ない。アパでは、お客様が安心して利用できるホテルを増やしていく。アパでは、「1ホテル1イノベーション」として、新ホテルには必ず新しい改善を加え、利便性向上を図っている。最近では、ベッドボードのコントロールパネルに、冷暖房と浴室の電源以外にワンタッチでオン/オフできる一括スイッチを開発し、コスト削減にも取り組んでいる。試段階で、お客様から好評を受けている。日本に比べて、海外では、お客様が安心して利用できるホテルは少ない。アパでは、お客様が安心して利用できるホテルを増やしていく。

訪日外国人客の地方分散を 宿泊産業は国際収支に貢献 日本型ホテルは世界に通用

雀部 村井 元谷

座に絞ると90%以上がインバウンド客になっている。一方で地方エリアではまだ30%程度はインバウンド客がいない。地方に絞ると、インバウンド客の割合は約5割に達している。インバウンド客の割合は約5割に達している。インバウンド客の割合は約5割に達している。

元谷 アパグループの海外系ブランドは、海外系ブランドが増えることが大歓迎。日本への訪問客全体の数が減るきついか、後押しになってくれるはずだ。

雀部 海外系ブランドの急増は、海外系ブランドが増えることが大歓迎。日本への訪問客全体の数が減るきついか、後押しになってくれるはずだ。

元谷 アパグループの海外系ブランドは、海外系ブランドが増えることが大歓迎。日本への訪問客全体の数が減るきついか、後押しになってくれるはずだ。

雀部 海外系ブランドの急増は、海外系ブランドが増えることが大歓迎。日本への訪問客全体の数が減るきついか、後押しになってくれるはずだ。

元谷 アパグループの海外系ブランドは、海外系ブランドが増えることが大歓迎。日本への訪問客全体の数が減るきついか、後押しになってくれるはずだ。

雀部 海外系ブランドの急増は、海外系ブランドが増えることが大歓迎。日本への訪問客全体の数が減るきついか、後押しになってくれるはずだ。

元谷 アパグループの海外系ブランドは、海外系ブランドが増えることが大歓迎。日本への訪問客全体の数が減るきついか、後押しになってくれるはずだ。

tap

新しい道を切り開く、 きっかけをつくる。

宿泊業界がテクノロジーの進歩にしっかりと対応していくために
2019年、ホスピタリティサービス工学研究所を開発いたしました。

2023年6月、実証実験施設 タップホスピタリティラボ沖縄 (THL) を開設。
産学官連携による生産性・顧客満足度向上に向けたDXを推進します。

株式会社タップ
〒135-0016 東京都江東区東陽 2-2-4 マニユライフリース東陽1F
TEL: 03-5683-5311 / FAX: 03-5683-5310

TAP Hospitality Lab Okinawa
タップホスピタリティラボ 沖縄
〒904-2234 沖縄県うるま市州崎 14-27